

■児童・生徒の学力の状況

- どの学年も落ち着いて授業に参加し、意欲的に個々の学習に取り組んでいる。
- 学力としては国語はほぼ全国平均と並んでいる。数学に関しては、全国平均と4ポイント、東京都平均と9ポイント低い結果となった。特に関数を用いた問題およびデータの活用の問題において正答率が低い傾向が見られた。
- タブレットPCの学習活動も多様になり、授業におけるアプリケーションやツール等の活用スキルが充実しつつある。すららドリル等を活用して自主的に問題に取り組む生徒が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 授業規律の確立を常に意識し、落ち着いた授業展開を継続すること。
- 学年相応の基礎的・基本的内容の定着を図るために、きめ細かな個別支援の継続すること。
- 思考力・判断力・表現力の向上を目指すための授業展開を工夫するとともに、読み解く力を育成すること。
- 授業スタンダード・授業スタンダードSIに基づき主体的、対話的で深い学びを実現する授業展開をすること。
- 基本的な計算能力を入学後早い時期に習得させること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 育成すべき資質・能力を明確に捉え、「学びに向かう力・人間性等の涵養」及び「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」の視点から生徒の意欲醸成を実感する授業を実践する。
- 学びの成果を実感させ、学習意欲向上を図るために、生徒が学習の見通しを立て、自らの言葉で学習の内容と学習を通しての気付き等について自らの言葉で振り返る活動の充実を図る。
- 「文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決したり、表現したり、要約する」活動を計画的に入れ、読み解く力を育成する。
- タブレットPC等の活用による情報活用能力・プレゼン能力を高め、社会に対応できる人間を育成する。
- 読み解く力を支える基礎的読解力の6視点を意識した授業を展開するとともに、漢字や語句を調べる活動・内容ができるだけ短い文章でまとめる活動を重視し、語彙力と要約力の向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTが授業の中に設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるようにする。特に「板橋を語れる子ども」の育成を見据えた、校外学習と関連させた郷土愛学習を実施する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
学びのエリアの小学校4校で実施している小小連携（ラボ活動）を基礎として、中学校における各学年の校外学習にて郷土愛の育成を実施する。	中学校入学から卒業までの3年間を見通した総合的な学習の時間の基本計画を策定する。 ・キャリア教育：1年次に職場体験学習、2年次に上級学校調べ、3年次に進路学習というように、自己の将来を見据えたキャリアの意識を育成する。 ・郷土愛の育成：小学校での学習を元に、1年次の川越校外学習、2年次の鎌倉校外学習、3年次の修学旅行で訪れた先と板橋区を比較した学習を行う。	生徒の一人一台端末活用について、強化の特性を踏まえながら活用方法を検討する。このとき「使用すること」を前提とした協議を行い、強化・生徒の特性に応じた授業・校務のDX化を見据えた改善ができるような建設的な校内研修等を実施する。